

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「当たり前の生活を守る」を理念とし、一人一人の好み、習慣、こだわりに合わせたケアを実践している。	ホームとして独自の理念を作成し、入所前からの生活歴や好みの把握に努め、職員で共有し、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭や文化祭、餅つきなどの行事の時には地域の方にも参加して頂いている。	法人の行事に地域の方にも参加していただいたり、近くにある小中学校の運動会に参加するなど、地域の方と交流の機会を設けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	啓発活動の依頼などがあれば、応じているが、積極的には行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回ご家族様や民生委員などに参加して頂き現在の状況や事故などについて報告し意見を頂いている。	2か月に1回運営推進会議を行い、事故報告を行うなど内容にも工夫がみられます。会議録に残し職員で情報共有できています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域法覚支援センターとはいつでも連絡が取り合える関係が出来ている。	包括支援センターの方に運営推進会議に出席していただくなどし、何でも相談できる関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠は全体行事などの時に開放する試みを行っている。	委員会を3か月に1回研修を年2回法人と協力しながら行い、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を定期的に行い、虐待に繋がらないようにスタッフ間で話し合いを行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要に応じて役所や関係機関と連携を取り、成年後見制度の利用につながるようにしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行っている。また、不安や疑問を口にして頂けるようにコミュニケーションをとるようにしている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を開催し、要望などを伺う機会をもうけている。また、玄関に意見箱を設置している。</p>	<p>日頃から何でも話せる関係づくりに努め、ご意見をいただいています。面会回数少ない方は電話を通じて状況を伝え、ご意見伺うようにしています。</p>	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>プラザ会議を月に1度開催し、職員の意見や気持ちをきくようにしている。</p>	<p>月に1回プラザ会議を行い、職員からの意見を出しやすくしています。また日頃から話しやすい雰囲気作りに努めています。</p>	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>現在、行えていない。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個人に見合った役割を担当してもらい、日々の中で良い所を伸ばしてもらえるように働きかけている。外部研修の参加あり。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>2カ月に一回、美原区、東区のグループホーム会議に参加。同法人内合同で勉強会を開催している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時、ご本人様から話を聞かせて頂き、どのような生活を望まれているか情報を収集して、ケアにつないでいる。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご家族と相談し、情報の収集を行っている。また、ご本人のこれまでの人生について把握したうえで、コミュニケーションをとるようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初回面談の際に聞き取り調査を行い、出来る限り近づけるように努力している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気と関係作りに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様との関係について重視し、ご家族参加のイベント等も開催している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>希望があれば、行方が、現在要望なし。</p>	<p>以前ケアハウスで一緒にいた方が訪ねて来られたり、ご自宅のご近所の方が訪問されたりと交流が続いています。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>孤立する事の無いよう配慮し、険悪な時はもめ事のないようにスタッフが対応している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院などで退所された方にも、電話連絡などで近況報告などを伺っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣、好み、こだわりなどご家族に記入してもらい、近づけるような生活ができるように心がけている。	その方の生まれた時から今までの生活を聞き取り、生活歴やこだわりなどの把握を行っています。記録し職員皆で共有しケアに生かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所時にご家族に記入してもらい、サービスに反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にカンファレンスをおこない、担当スタッフと共に現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを中心にカンファレンスを行い、介護計画に生かしている。必要に応じてご家族にも相談している。	入居者一人ひとりに担当者を決めモニタリングを行い介護計画に活かしています。半年に1回見直しをし、署名押印いただいています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に個別に記録し、スタッフ間で共有し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人のその時の状況に応じて出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば、行すが、現在要望なし。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、歯科、眼科の往診がある。また、今までのかかりつけ医に受診してもらおう事も出来る。	週1回法人の医師が往診に来られ、健康状態を把握している。また、歯科や眼科の往診もあり、適切な医療を受ける体制ができている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週2回、訪問看護を受けている。それ以外の時でも、状態の変化があれば、いつでも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力機関の病院へ連絡し、受け入れてもらっている。見舞いや病院への連絡を行い、退院への情報収集を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化や終末期について要望を聞いている。また、体調の変化があれば、都度ご家族に相談し、主治医との話し合いを設けている。	入所の際に重度化や終末期の意向の確認を行っているが、ご家族の思いに変化があれば、その都度確認を行うようにし、看取りにも取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故対応について、定期的に研修を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。地震時の対応などは掲示している。備蓄の確保も行っている。	年に2回、日中、夜間想定で行っており、消防署の方にも来て頂いて特養と合同で実施しています。また、特養に3日分の備蓄もされています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の馴染の言葉を使い分けて声掛けをしている。また、自尊心を傷つけないように配慮している。	ご利用者一人一人に対し、丁寧な言葉遣いをしています。また、職員同士でご利用者様への声掛けについて考えたりする機会も設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方に関しては、選択してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のリズムは決めているがご本人の要望があれば、出来る限り希望にこたえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪に来てもらっている。行事の際など、化粧やマニキュアを塗って頂くこともあり。衣類は選べる方には選んでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLに応じて、盛り付けや、片付けなどを手伝って頂いている。誕生日月には、食べたい物を聞き取り提供するようにしている。	メニューは本体の特養の栄養士が作成し、ミキサー食など多様な食事形態に対応しています。自主的に片付けをする方もいらっしゃいました。月に1回食事会をするなど楽しい食事が提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養スクリーニングを実施し、減塩食や、プロテイン補給など、一人一人の状態に合わせた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じて、口腔ケアの方法を変えて提供している。週に1度歯科往診をうけてもらっている。		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>出来る限りトイレにて排泄して頂けるよう取り組んでいる。個人の排泄の間隔に応じたトイレ誘導をしている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンに合わせ、できるだけトイレでの排泄を支援し、立位をとっていただく機会を設けている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎朝ヨーグルトを食べて頂いている。水分補給の徹底と便秘気味の方には牛乳を提供したり工夫している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴する日は決めているが、個人に合わせて回数などは変えている。また、希望があれば毎日でも入浴して頂いている。</p>	<p>個人に合わせて入浴回数も設定せず、入りたい日に入浴しています。また、拒否がある方にも本人のペースで入って頂くよう、毎日声掛けをされる等、寄り添ったケアができています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>習慣やリズムだけではなく、その時の様子をみて必要であれば休んで頂くようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全ての利用者様の薬情報をすぐに閲覧できるようにしている。服薬時は、2名のスタッフで確認し誤薬防止に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>様々な情報をもとに、散歩や、家事手伝い、作業など本人の好きな事や出来る事を行って頂くようにしている。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見などの外出機会をもうけている。スーパーへの買い物など希望があれば、外出して頂いている。	希望者は毎日職員と散歩に出かけたり、スーパーへの買い物にも出かけています。月に1回の外食や、お花見など戸外へ出かける機会を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理出来る方には、所持して頂き、支払いも行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は希望があれば、スタッフが付き添いいつでもかけて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、店間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁画を飾っている。暖色で統一されたフロアには対面式のキッチンがあり、家庭的な雰囲気を出している。	フロアではご利用者に直接空調の風が当たらないような配慮や、ご利用者がゆっくり過ごせるスペースを確保し、居場所作りができていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを設置し、個々にテレビ鑑賞をしたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族様に協力いただき、馴染みの物などあれば居室に配置できるようにしている。	入所時に使い慣れた物を持参されたり、ご本人様と話し合いベッドの位置や家具等の配置をされています。	ご利用者やご家族が気持ちよく過ごせるよう環境整備は欠かせません。安全で落ち着いて清潔であることに、より一層尽力されますこと期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたんで頂いたり、食器拭きを手伝って頂く等、能力に合わせて役割を持って頂いている。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない